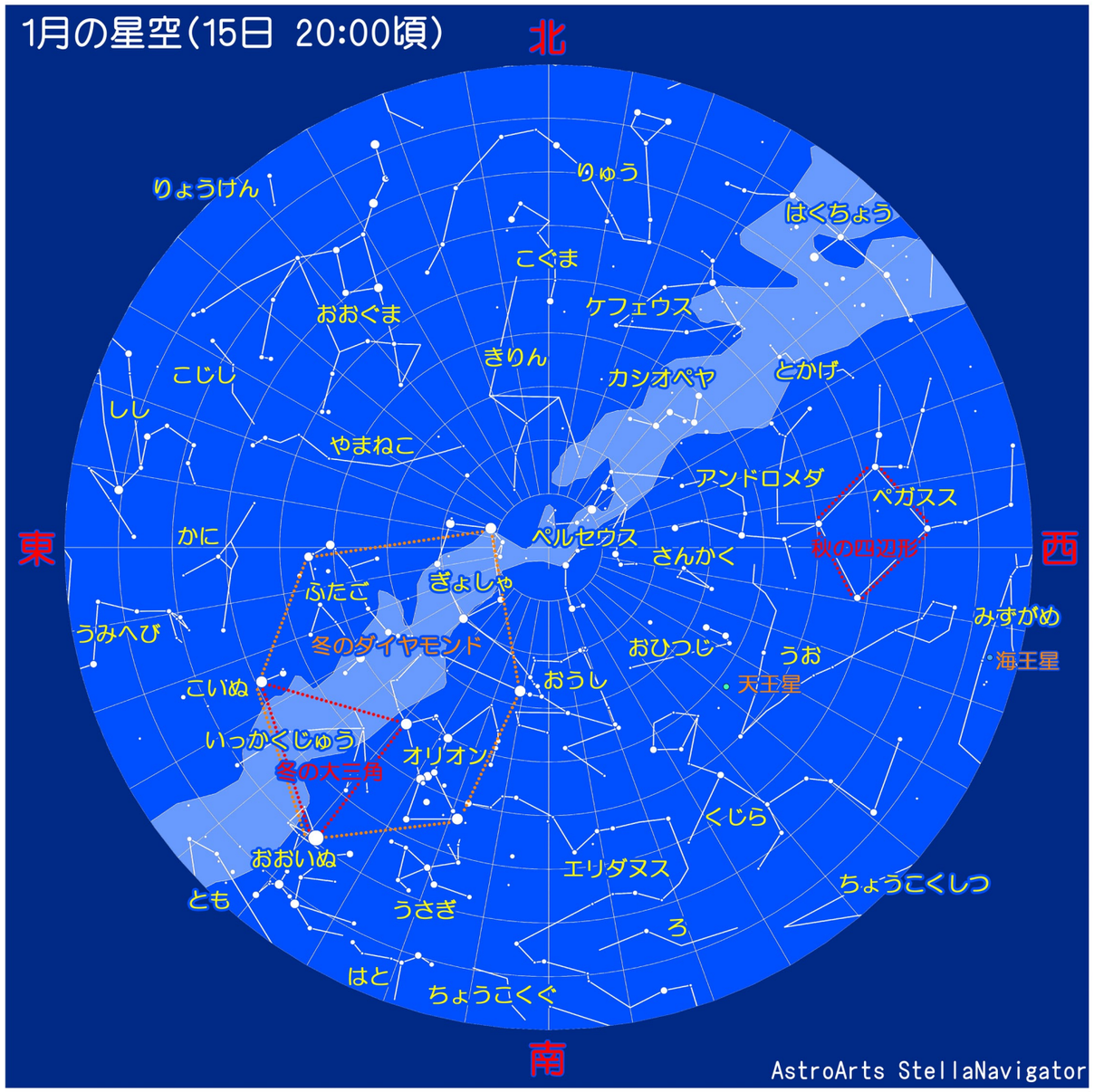
銀河の森天文台
2020年1月みどころ天体情報



今月のイチオシ！

☆オリオン座

冬の星座で一番最初に思い浮かぶのは、このオリオン座ではないでしょうか？２つの１等星を持ち、真ん中には三ツ星、冬の澄んだ夜空の中でもひと際目立つ存在です。三ツ星の下にあるM42オリオン大星雲は、鳥が羽を広げたようなその姿がとても見事です。

オリオン座の右肩に位置するベテルギウスは近い将来、超新星爆発を起こすのではと期待されていますが、この星に現在ちょっとした異変が起きています。詳しくは「ちょっとマニア」をご覧下さい。

オリオン座

月

		出	没
3日	◐上弦	11:25	23:55
11日	○満月	16:29	07:16
17日	◑下弦	23:52	10:53
25日	●新月	07:05	16:38

天文台から月を見ることができるのは8～12日頃、と29～31日頃、望遠鏡での見頃は上弦前後です。

距離：約38万km

天王星

太陽系の外側から２番目の惑星、天王星がおひつじ座に見えています。淡いグリーン色が特徴で、小さく見えますが、直径は地球の約4倍もあります。自転軸がほぼ横倒しになっているのも大きな特徴です。

太陽からの距離：約29億km

M42（散光星雲）

オリオン大星雲と呼ばれ冬を代表する天体のひとつです。望遠鏡では、星雲の複雑な模様を観察することができます。中心部には生まれたばかりの４つの星（トラペジウム）が四角く並んでいます。

距離：約1400光年

M37（散開星団）

ぎょしゃ座にある明るい3つの散開星団のひとつでその中でも星の密集度が高く、非常に見ごたえのある星団です。りくり望遠鏡では、視野一面に星々が広がる様子を見ることができます。

距離：約4400光年

NGC2392（惑星状星雲）

ふたご座に位置し、毛皮のフードを被ったような姿から「エスキモー星雲」と呼ばれています。わずかに緑がかった青色が印象的で空の条件が良ければ愛称の由来となったフードのような構造も見えてきます。

距離：約1360光年

M44（散開星団）

プレセペ星団と呼ばれ、肉眼でも見ることが出来ます。星団である事を発見したのは、ガリレオ・ガリレイと言われています。アイヌも古くからこの星団を知っており、エルムン・プ（ねずみの倉）と呼んでいました。

距離：約590光年

うさぎ座R星（恒星）

クリムゾンスターと呼ばれ、非常に赤い色をしています。

この星は炭素を多く含んでいる炭素星で、そのために通常の星よりも赤く輝いています。

距離：約817光年

ちょっとマニア

・暗いベテルギウス

昨年の10月頃から、ベテルギウスがとても暗くなっています。過去50年間では一度もなかった暗さです。左肩の星ベラトリクス（1.6等）の明るさと比べてみましょう。

距離：約642光年

その他おすすめ

- M1（超新星残骸）
- M45（散開星団）
- M78（散光星雲）
- M82（銀河）
- シリウス（恒星）
- アルマク（重星）
- かに座ι（重星）

1・2月の銀河の森天文台カレンダー

1月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

開館時間

14:00～22:30
（4月～9月）

13:00～21:30
（10月～3月）

休館日